

# 新・技術士CPD制度

## 技術士CPDガイドブック(要約版)

### CPD活動実績の技術士登録簿への記載を制度化

技術士法施行規則の一部改正により、2021年9月から技術士CPD活動実績を技術士登録簿に記載できるように制度化されました。

### CPD活動実績の3つの認定・公表制度もスタート

「基準CPD時間」、「推奨CPD時間」、「技術士(CPD認定)」の認定要件を達成した技術士の名簿をホームページに掲載することになりました。

### 経緯

- 日本技術士会では、2002年度より技術士CPD登録の受付・管理を実施しています。
- 技術士CPD活動実績の登録は、公共調達に関わる技術者の評価など、活用機会が増大しています。
- 文部科学省の科学技術・学術審議会第10期技術士分科会において「技術士のCPD活動の実績の管理及び活用を可能とする公的な仕組みの構築の必要について」提言がなされました。
- その実施に向けて2021年4月に大臣通知が発出され、技術士のCPD登録に係る公的な仕組みが示されるとともに、その事務を日本技術士会が担うことになりました。
- 9月には技術士法施行規則の一部改正が行われ、技術士登録簿の登録事項として資質向上の取組状況が追加され、技術士が希望するときは技術士CPD活動実績の記載ができるようになりました。

### 技術士CPD活動の目的

技術士資格は専門的学識、問題解決能力、マネジメント等の高度な資質能力を保証するものです。技術士のCPD活動は、資格取得後もその資質能力を維持するとともに更に向上させることを目的としています。

### 技術士に求められる資質能力(コンピテンシー)

技術士は「専門的学識」、「問題解決」、「マネジメント」、「評価」、「コミュニケーション」、「リーダーシップ」、「技術者倫理」といった7つの資質能力を最低限備えなければなりません。

### 技術士のキャリア形成に必要なCPD時間の目標

基準CPD時間：20CPD時間／年度

推奨CPD時間：50CPD時間／年度(うち技術者倫理1CPD時間以上)

技術士(CPD認定)：250CPD時間／5年度間(うち技術者倫理5CPD時間以上、但し2021年度までの実績には不要)

## 技術士CPD活動の資質区分と形態区分

技術士はCPD活動の資質区分・資質項目(表-1)と形態区分・形態項目(表-2)を俯瞰しつつ、CPD活動を通じてバランスの取れた幅広い資質能力の修得に取組む必要があります。

(表-1) CPD活動の資質区分と資質項目

資質区分	資質項目
A.専門的学識	1-1 技術部門全般
	1-2. 専門(選択) 科目
	1-3 法令・規格等の制度
	1-4 社会・自然条件
B.一般共通資質	2 問題解決
	3 マネジメント
	4 評価
	5 コミュニケーション
	6 リーダーシップ
	7 技術者倫理

(表-2) CPD活動の形態区分と形態項目

形態区分	形態項目
I.参加型	1 講演会
	2 企業内研修
	3 学協会活動
II.発信型	4 報文・論文
	5 講師・技術指導
	6 図書執筆
	7 技術協力
III.実務型	8 資格取得
	9 業務成果
IV.自己学習型	10 多様な自己学習

## 技術士CPDの登録方法

ホームページの技術士CPDから、日本技術士会CPD登録システム(Pe-CPDシステム)の技術士CPD登録画面(図-1)にアクセス。正会員は会員「ID」、「パスワード」を使用してWEB登録を行います。また、非会員であってもWEB登録メンバー(2,000円/年)になり、「ID」、「パスワード」を取得すればシステムの利用が可能です。

(図-1) 技術士CPD登録画面(記入例)

The screenshot shows the 'Pe-CPD (CPDのWEB登録・管理)' registration form. The 'CPDの内容' field is highlighted with a red box and contains the following text:

メインテーマ:「アフターコロナ時代の技術者倫理」  
 講演1:「VUCAの時代の技術者倫理」  
 礼野 順氏(早稲田大学 教授)  
 講演2:「失敗事例の中に潜む良好部分からの教訓」  
 大場 英子氏(東京技術科学大学 准教授)  
 兼 日本原子力研究開発機構 技術副主幹

At the bottom of the form, there is a green box with the instruction: 「上記各欄のように、選択・入力して下さい。」



## 日本技術士会CPD時間算定基準

技術士は、CPDの目的に適したものを自主的に選択して実施するとともに、その実績をCPD時間に換算し登録することが求められます。(表-3)及び(表-4)の基準は2022年4月以降に実施するCPD活動に適用されます。(2017年4月から2021年3月までのCPD活動には、技術士CPD(継続研鑽)ガイドライン第3版の適用となります。)

(表-3) 日本技術士会CPD時間算定基準

H(hr.),M(min.)

形態区分	形態項目	内容	登録コード	CPD時間換算係数	CPD時間年度上限	
I.参加型	1.講演・研修	講演会、講習会、研修会、シンポジウム、eラーニング、見学会等への参加	100	1/H	-	
	2.組織内研修	企業等の組織が研修プログラムに基づき実施するもの	200	1/H	-	
	3.学協会活動	(1)学協会の委員会・専門部会等への参加	310	1/H	30	
(2)学協会の会誌購読		320	1/H	10		
II.発信型	4.論文・報告文	(1)技術発表会(口頭発表) 学協会等の公的機関主催	411	5/H	-	
		企業主催	412	2/H	-	
		(2)学術論文の口頭発表(学協会主催)	420	0.4/M	-	
		(3)学術誌・論文集への論文・報告文の掲載	学術誌への査読付き技術論文	431	40/件	-
			査読のない論文及び企業内論文集等	432	10/件	-
	(4)学協会等が発行する学術誌への論文・報告文の査読	440	5/件	-		
	5.講師・技術指導	(1)大学、学協会、研究機関、民間団体、企業等が開催する研修会、講習会、技術説明会、シンポジウム、パネルディスカッションの講師及び大学の非常勤講師等	510	3/H	-	
		(2)小・中学校等での理科教育の講師	520	1/H	-	
		(3)修習技術者等に対する具体的な技術指導	530	1/H	-	
	6.図書執筆	出版物としての技術図書の執筆(翻訳を含む)	600	1/H	30	
7.技術協力	大学・研究機関・国際協力機構等への有識者としての参加、JABEE・APECエンジニアの審査委員、公的機関の審査委員等	700	1/H	30		
III.実務型	8.資格取得	国家資格の技術資格の取得	800	20/件	-	
	9.業務成果	(1)表彰 国、地方公共団体、学協会等の公的機関からのもの	911	20/件	-	
		企業等の表彰規定に基づくもの	912	10/件	-	
(2)特許出願	920	40/件	-			
IV.自己学習型	10.多様な自己学習	技術士のCPDに値すると判断される①自己研究、②受講確認のできないオンデマンド講座、③放送大学等のTV視聴、④大学、大学院、職業訓練の受講、⑤技術を通じたNPOやボランティア活動、⑥環境教育活動、⑦展示会への参加、⑧博物館等の見学、⑨語学学習、⑩異業種交流会、⑪プライベートな学習会、⑫公的な審議会の傍聴、⑬資格取得のための学習、⑭講演会の資料作成、⑮その他	010	0.5/H	30	

(表-4) 日本技術士会CPD時間算定基準(注意事項)

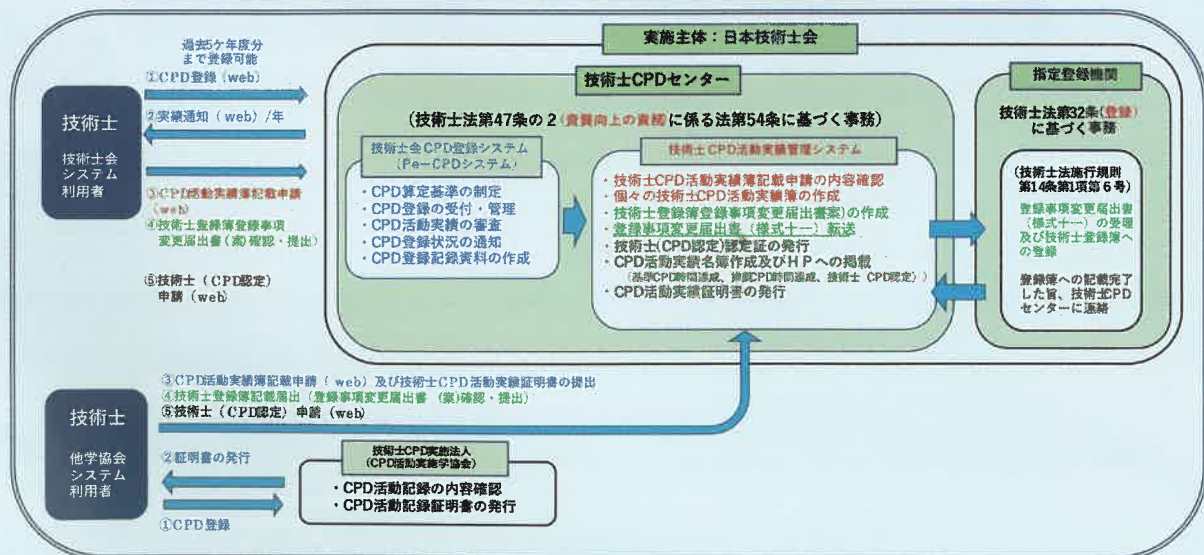
形態項目	Pe-CPDへの登録及び記入に当たっての注意事項
共通	1) 上限時間のある形態項目に注意して記入する。 2) 活動実績が確認できる参加票、受講証明書、議事録、プログラム、学協会誌、表彰状等を保管しておく。
1.講演・研修 2.組織内研修	1) CPDの内容欄は、プログラムの内容が分かるように簡潔に記入する。 2) 同一の講演・研修の実時間を、2つの資質項目に分けて計上できる。 例：実時間3時間の講演会を、B2.問題解決(2時間)、B7.技術者倫理(1時間)に分けて計上する。 3) 講演の合間の食事以外の短時間の休憩時間は、講演時間に含めてよい。 4) ウェブでの同時視聴は認める。 5) eラーニングは受講修了証等により受講が確認できるものに限る。それ以外は多様な自己学習(010)で計上する。但し、日本技術士会のPe-CPDに収録されている講演録画の視聴はeラーニングとして認める。 6) 組織内研修は企業等の組織内に位置づけられた研修会・発表会に限る。それ以外は多様な自己学習(010)で計上する。
3.学協会活動	1) 通年の活動として委員会、小委員会、WG、部会等別に記入できる。それぞれ年度当りの上限を10CPD時間とし、年度末にまとめて記入する。 2) 委員会、専門部会等の設置機関名、名称を明記する。 3) 総会、大会式典等への参加は学協会活動(310)で計上する。記念講演等は講演・研修(100)で計上できる。 4) 学協会の会誌購読(320)は、年度毎にまとめて記入できる。
4.論文 ・報告文	1) 技術論文は、オリジナリティー、オーナーシップを有し、未発表のものとする。 2) 論文・報告文は題名、ページ数、内容を記述する。 3) 連名・共著の場合は1件当たりのCPD時間を関係者で貢献度に応じ配分し計上する
5.講師 ・技術指導	1) 講演等のための資料作成等は、多様な自己学習(010)で計上する。 2) 技術士等の国家資格の受験指導は、営利の場合を除き修習技術者に対する技術指導(530)として計上できる。
6.図書執筆	出版社名、図書名、執筆タイトル、ページ数、執筆内容を記入する。
7.技術協力	業務としてのJICA技術協力は計上できない。
8.資格取得	資格取得のための学習は、多様な自己学習(010)で計上できる。
9.業務成果	1) 表彰は感謝状を含む。同一業務において複数の表彰は計上できない。 2) 特許は出願時に計上できる。
10.多様な 自己学習	テーマ、内容等について簡潔に記述する。

## 技術士CPD活動実績管理システム

個々の各技術士のCPD活動実績簿の作成を行い、技術士登録簿への記載、CPD活動実績名簿の作成及び技術士(CPD認定)の認定、CPD活動実績名簿のホームページ掲載、技術士CPD活動実績証明書の発行等を行います。(図-2)

(図-2)

### 技術士CPD活動実績の管理及び活用の仕組みの詳細





## 技術士CPD活動実績簿への記載申請

(日本技術士会HP: [https://www.engineer.or.jp/contents/cpd\\_new.html](https://www.engineer.or.jp/contents/cpd_new.html))

### (1) 日本技術士会のCPD登録システム利用者

技術士CPDセンターは、日本技術士会のCPD登録システムであるPeーCPDシステムを使用してCPD登録を行っている技術士に対して、毎年度末にCPD活動実績を通知します。CPD活動実績を技術士CPD活動実績簿(表-5)に記載を希望する技術士は、日本技術士会のホームページの技術士CPD活動実績簿記載申請の様式1にCPD活動実績を記入して申請します。申請手数料は、日本技術士会会員は無料、非会員は2,000円です。

### (2) 他学協会のCPD登録システム利用者

日本技術士会以外のCPD登録関係学協会である「技術士CPD実施法人」にCPD登録を行っている技術士が、技術士CPD活動実績簿にCPD活動実績の記載を希望する場合は、日本技術士会のホームページの技術士CPD活動実績簿記載申請の様式2にCPD活動実績を記入して申請します。申請手数料は、日本技術士会会員は無料、非会員は2,000円です。

(表-5) 技術士CPD活動実績簿(例)

氏名	カナ氏名	登録番号	技術部門	選択科目	CPD時間の実績 (H/年度)						技術士 (CPD認定)			
					16	17	18	19	20	21	認定日	有効期限	更新回数	
					合計	55	55	60	57	60	52	22.4.20	27.4.19	0
					うち倫理	0	1	2	1	3	1			
						○	◎	◎	◎	◎	◎			

(注) : 技術者倫理 ○: 基準CPD達成 ◎: 推奨CPD達成

## 技術士登録簿の登録事項変更届書の提出(法的手続き)

技術士登録簿の資質向上の取組状況欄(表-6)に記載するためには、指定登録機関(日本技術士会)に登録事項変更届出書の提出が必要です。技術士CPD活動実績簿への記載申請を行うと、日本技術士会は登録簿への記載希望を確認して、所要事項が記入された登録事項変更届の用紙をデータで送付します。申請者は内容を確認して、作成ボタンをクリックすれば、作成が完了し届出ができます。技術士登録簿の「資質向上の取組状況」欄の記載内容は、過去最大5年度間の年度ごとのCPD時間の合計及びその内数として一般共通資質の技術者倫理のCPD時間です。届出に費用はかかりません。

(表-6) 技術士登録簿

登録番号	登録年月日	氏名	生年月日	第2次試験合格年月日	第2次試験の技術部門の名称	自ら業務を営むときの事務所		他に勤務するときの事務所		資質向上の取組状況	備考
										技術士CPD活動実績	

技術士CPD活動実績(例)

資質区分	CPD時間/年度				
	2017	2018	2019	2020	2021
CPD時間合計	55	60	57	60	52
(うち技術者倫理)	1	2	1	3	1

## 技術士CPD活動実績名簿の公表及び「技術士(CPD認定)」の認定と公表

基準CPD時間(毎年20CPD時間以上)及び推奨CPD時間(年間50CPD時間以上、うち年間1CPD時間以上の技術者倫理)を達成している者の名簿を作成、ホームページに技術士CPD活動実績名簿を掲載します。(表-7) 期間連続して一定以上のCPD活動実績が認められる技術士を「技術士(CPD認定)」に認定し、認定証を発行するとともに、名簿をホームページに掲載します。(表-8)

(表-7) 2022年度技術士CPD活動実績名簿(例) 【推奨(又は基準)CPD時間達成者(2021年度実績)】【氏名五十音順】

氏名	カナ氏名	登録番号	技術部門	選択科目

(表-8) 技術士(CPD認定)名簿(例)

2022.4

氏名	カナ氏名	登録番号	技術部門	選択科目	技術士(CPD認定)		
					認定日	有効期限	更新回数

## CPD登録・証明書等の手数料

日本技術士会へのCPD実績の登録、及び技術士登録簿へのCPD実績記載申請、技術士(CPD認定)の認定の申請、CPD活動実績証明書の申請に係る手数料は(表-9)のとおりとします。

(表-9) CPD登録・証明書等の手数料

CPD登録団体		Pe-CPD CPD登録	CPD実績簿 記載申請	CPD実績簿 記載申請 (2回目以降)	登録事項 変更届出	技術士 (CPD認定) 認定	技術士CPD 活動実績証 明書
技術士会登録	会員	無料	無料	2,000円	無料	3,000円	1,000円
	非会員	2,000円	2,000円	2,000円	無料	5,000円	5,000円
他学協会登録	会員	—	無料	2,000円	無料	3,000円	1,000円
	非会員	—	2,000円	2,000円	無料	5,000円	5,000円

注)「2回目以降」とは、同一年度内における複数回の申請の場合である。

## 技術士CPD(継続研鑽)ガイドライン第3版の取り扱い

- (1) 2022年3月末までに実施したCPD活動については、技術士CPD(継続研鑽)ガイドライン第3版(平成29年4月)に基づいて算定します。また、証明書の発行も従来通り行います。
- (2) 「技術士CPD認定会員」制度は、その有効期間中は現在の扱いと同様とします。但し、2021年9月7日付で新規及び更新の受付を終了しました。

この「技術士CPDガイドブックVer.1.2」は今後も適宜改訂されます。改訂の内容については、HPで随時ご確認ください。(日本技術士会HP: [https://www.engineer.or.jp/contents/cpd\\_new.html](https://www.engineer.or.jp/contents/cpd_new.html))

問合せ先



公益社団法人日本技術士会 技術士CPDセンター

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館  
Tel:03-3459-1331 / mail:cpd-kanri@engineer.or.jp



Ver.1.2